2025年8月17日  川越教会

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　丸山　勉

 私たちは「キリスト人」

［申命記10章12～22節］

 イスラエルよ。今、あなたの神、主があなたに求めておられることは何か。ただ、あなたの神、主を畏れてそのすべての道に従って歩み、主を愛し、心を尽くし、魂を尽くしてあなたの神、主に仕え、わたしが今日あなたに命じる主の戒めと掟を守って、あなたが幸いを得ることではないか。見よ、天とその天の天も、地と地にあるすべてのものも、あなたの神、主のものである。主はあなたの先祖に心引かれて彼らを愛し、子孫であるあなたたちをすべての民の中から選んで、今日のようにしてくださった。心の包皮を切り捨てよ。二度とかたくなになってはならない。あなたたちの神、主は神々の中の神、主なる者の中の主、偉大にして勇ましく畏るべき神、人を偏り見ず、賄賂を取ることをせず、孤児と寡婦の権利を守り、寄留者を愛して食物と衣服を与えられる。あなたたちは寄留者を愛しなさい。あなたたちもエジプトの国で寄留者であった。あなたの神、主を畏れ、主に仕え、主につき従ってその御名によって誓いなさい。この方こそ、あなたの賛美、あなたの神であり、あなたの目撃したこれらの大いなる恐るべきことをあなたのために行われた方である。あなたの先祖は七十人でエジプトに下ったが、今や、あなたの神、主はあなたを天の星のように数多くされた。

[1]　排外主義が膨らみつつあるこの時に

　今日も、旧約聖書の申命記の言葉を通し、また「平和」を共に考え、祈る時とさせて頂きたいと思います。先日新聞の中に、「考える広場」というコーナーがあって、そこで、ロシア文学研究者の奈倉有里さんという方が寄稿をされていました。この奈倉さんは現在40才半ばの若い方ですが、もっと若い時にロシアに留学し、国立ゴーリキー文学大学を卒業された方です。こんな文章です。

―**「2004年、モスクワの地下鉄駅構内でアルメニア人の留学生が殺された。現場は私が留学していた大学の最寄駅だった。私は学校帰りにホームに積まれていく献花を眺めた。不意に、ある男性が「ファシズム撲滅 !」と叫び、別の人が「叫ぶことはないだろう」と止めた。さらに「キリスト教徒が殺されるなんて」と嘆く人、「最近まで同じ国（ソ連）の人だったのに」と括る人、「ロシア語を学ぶ学生なら仲間だ」とかばう人が続いた。皆、殺された青年を擁護する言葉を探しながらも、誰が味方で誰が敵なのかを探っているような、緊張した空気が流れた。そのとき、小柄なおばあさんが歩み出て言った。「皆、何を言ってるの？キリスト教徒だ、言語だっていうなら福音書を読みなさい。すべての人類は兄妹なの、すべての、あらゆる人が！」。それきり誰も何も言わなかった。後に明らかになった殺人犯は、排外主義に染まった若者だった。あのとき群衆のなかで勝ったのは憎しみの連鎖を閉じる博愛の声だった」。**

―この後で奈倉さんは、そういうこともあったが、その後でロシアの政治体制は、一般市民にとって自由にものが言えない監視社会にもなり、ウクライナへの侵攻もそのような中で始まってしまったことを書いていました。では、奈倉さんが、一人のおばあさんの声として聞いたという**「皆、何を言っているの？福音書を読みなさい。聖書を読みなさない、すべての人は兄妹なのよ！」**というのは空しい言葉なのでしょうか？私はそうは思いません。いや、今差別や排外主義が膨らみつつあるこの時こそ「何に耳を傾けるのか」が問われていると思います。

[2] 「あなたたちも寄留者であった」

「福音書」が編まれる前の聖書は「旧約聖書」です。そこにはイエス・キリストは出てきません。しかし、旧約聖書には既に神様のご意思というものが明確に表されています。今日の申命記でもそうです。「イスラエルよ。今、あなたの神、主があなたに求めておられることは何か。ただ、あなたの神、主を畏れてそのすべての道に従って歩み、主を愛し、心を尽くし、魂を尽くしてあなたの神、主に仕え、わたしが今日あなたに命じる主の戒めと掟を守って、あなたが幸いを得ることではないか。」―あなた方は、神様との関係を生きることで幸いを得なさい、とモーセは語りました。そして、振り返ってごらんなさい。事実あなた方は神様によって顧みられ、愛され、導かれてきたではないかと。これは「思想」ではなくて、その「事実」にしっかり立ちなさいと語っているのだと思います。そして、驚くべきことと言って良いと思いますが、イスラエル民族に、民族主義に陥るな、ということも語っているのです。17節以下です。「あなたたちの神、主は神々の中の神、主なる者の中の主、偉大にして勇ましく畏るべき神、人を偏り見ず、賄賂を取ることをせず、孤児と寡婦の権利を守り、寄留者を愛して食物と衣服を与えられる。あなたたちは寄留者を愛しなさい。あなたたちもエジプトの国で寄留者であった。」　まことの神様は、例えば「日本の神様」とか「イスラエルの神様」とか「ロシアの神様」とか、そんな民族限定の神様ではないということです！「人を顧みない」（差別しない）方、そして「寄留者を愛して食物と衣服を与えられる」方だと言うのですね。「寄留者」とは「外国人」と言い換えても良いでしょう。なぜそのように神様は言われるのか―「あなたたちもエジプトの国で寄留者であった。」　そのことを思い出させるのですね。そして主は「あなたたちは寄留者を愛しなさい」と言われます。これはイエス様が、「あなたの“隣人”を、自分のように愛しなさい」（マタイ22:39）と言われた言葉と、ほぼ一緒ではないでしょうか？

週報にも書かせて頂きましたが、この8/15に多くの人たちが靖国神社に参拝していることや、また、このいわゆるお盆の時期、先祖とか家族とかが意識される様な時に、自分自身がクリスチャンであるということはどういうことなのかを改めて考えさせられます。よくこういう言葉を聞いたりすることがあると思います。**「私たちはクリスチャンである前に日本人だ」。**皆さんはどうお思いになるでしょうか？「日本人」であることが「キリスト者」であることより先に来ることなのかどうか。私が思うことはこうです。私たちの存在の立ち位置（アイデンティティー）は、日本人であるという事実を受け入れながらも（そしてそれを大切にしながらも）日本人ということも超えたものなのではないだろうかと思うのです。それこそ、先ほどの奈倉さんの文章にあった一人のおばあさまが語った「何言っているの？福音書を読みなさい」です。神様の愛、キリストの十字架の赦しの恵みの中で、すべての人は、〇人も〇人もなく、兄弟なのだということ。これは「聞きなさい」と言われる神様のメッセージなのではないでしょうか？

　先に読んだ**奈倉有里さん**の文章はこういう言葉で結ばれていました。**「あらゆる差別や排外主義を赦さず、過去の罪に対する謝罪を惜しまず、「すべての人」に愛を向けられる社会を築くことが、この先の世界を和解に向けて動かすために私たちが自らの意志でできる緊急の課題ではないだろうか。」**―本当にそうだと思いましたし、これは私たちの生活の中で始めることが出来ることなのだなと思いました。私たちは、等しく神様に愛されているのですから。

[3] 「みんな　となりどおし」ということ

「イッツ・ア・スモール・ワールド」と言う言葉をお聞きになったことがある人は多いと思います。東京ディズニーランドにも、子供たちに特に人気のそういう名前の乗り物がありますね。ゆっくり進むフロートに乗って、世界各地の色んな場面で、昼もあり、夜もあり、小さな子どもたちの人形が、コスチュームを着て踊ったり、歌を歌っているのですね。歌はあの「イッツ・ア・スモール・ワールド」の色々な言語の歌です。日本語でも「小さな世界」で良く知られています。それはこういう歌詞ですね。**「世界中 どこだって 笑いあり 涙あり みんな それぞれ 助け合う 小さな世界　世界はせまい 世界は同じ 世界はまるい ただ一つ」。**

これもまぁ、ウォルト・ディズニーの精神を汲んだ言葉で決して悪くはないのですが、ここに一冊の絵本がありまして、「イッツ・ア・スモール・ワールド」とはどんなことを言っているのか、優しくも新しい日本語で作られた絵本があるので、皆さんに是非ご紹介したいと思いました。

イラストは、台湾出身のポップアーティストのジョーイ・チョウさん、言葉は、日本人以上に日本語を巧みに用いるアメリカ人の詩人、アーサー・ビナードさんです。この絵本では「世界は同じ…ただ一つ」とは言わないのですね。何と言うか。そこの所をちょっと注目してみて下さい。（絵本を実際に開いて読みます）

**「わらいが　いっぱいの　せかい」**

**「なみだも　ぽろぽろ　いっぱい」**

**「わくわくするのも」**

**「どっきりするのも」**

**「みんなわけあって　となりどおし」**

**「きみも　わたしも」**

**「あなたも　ぼくも　せかいは　みんな」**

**「みんな　となりどおし」**

**「おんなじ　おつきさま　みんなすき」**

**「みんなの　おひさまも　ひとつ　ぽっきり」**

**「にこにこ　にっこりは　ともだちってこと」**

**「やまがじゃま？　いいえ　みんな　となりどおし」**

**「うみのむこうは　とおい？　いいえ、すぐとなり」**

**「せかいはみんな　となりどおし　みんなは　いっしょ」**

**「となりどおし」**

…この「となりどおし」にして頂くために、主イエス様が私たちの真ん中に来て下さったことを覚えて行きたいと思いました。

お祈りを捧げます。主よ、今日の礼拝を感謝します。私たちは皆、神様に愛されている「人間」です。どうか、自分や自分の民族だけを絶対化するような狭さから解き放って下さい。あなたは「二度とかたくなになってはならない」と言われました。誠に頑なな者でありますが、どうぞ悔い改めの心をお与え下さい。私たち罪人のためにこそ、イエス様の十字架があることを信じさせて下さい。私たちは、この地上にあっては寄留者、旅人です。どうか、隣人たちと共に認め合いながら生きる私たちの世界であることが出来ますように。等しくイエス・キリストの憐みに生かされる、「民族」というものを超えた眼差しを与えて下さい。全てを破壊する愚かな戦争が早く止むように祈る続けることが出来ますように。主イエス。キリストによってお祈り致します。アーメン。